

## 入選

### 水が育てた伝統産業

小矢部市立津沢中学校 二年 川合 零音

みなさんは、「水と言うものを考えたことはありますか？私は一度も考えたことはありません。なぜなら「水はあってあたり前。」そう思っていたからです。しかし、水について考えていくうちに考え方が180度変わりました。

あれは、中学一年生の十月頃の話です。

「上手にできるかな？」

不安しかありませんでした。校外学習で行った五箇山の和紙の里で、はがき作りに触れた時のことです。和紙のはがきを作る時、水を想像以上に使っていました。その水の中に不純物など入っていると和紙作りの出来上がりに影響を及ぼすそうです。きれいな水を使用しないといけない、そんな繊細な和紙作りを体験させてもらいました。

私は、この体験を通して気付いた事があります。それは、水なしでは和紙という素敵な伝統工業をつくる事ができない！ということですよ。そしてもう一つ、きれいな水であること。日本でも富山県の水はとてきれいな水で知られています。その水を沢山使っている、これはまさに水が育てた伝統産業だと思います。

今まで水があつてあたり前だと思つていたけどこの体験を通して水に関しての考え方が変わりました。「水はあって当たり前」ではない。「水はなくてはならないもの。」そう思いました。伝統文化をつなげるためにはとても大切なもの。そしてキレイな水を保つていかなければいけません。保つためにはどうしたらいいのでしょうか。そのためには、山や川、池などにポイ捨てをしない。それが私の中では一番大切なかなと思えました。だから皆さんもキャンプなどに行く時は、必ず袋を持って行ってポイ捨てをしないように心がけてみませんか？

そういった身近でできる一つ一つの積み重ねでキレイな水が生ま

れ、水を守ることにつながります。一人一人の心がけで、環境が良くなり、水もキレイになる。そして伝統が守られる。こんなすばらしいことは他にありません。伝統文化、日本文化がいつまでも続くよう、私もこの気持ちを忘れず身近な事からはじめていきたいと思えました。